

平成 28 年度 教育方法改善のための自己点検・評価(授業評価等)実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙1「平成 28 年度授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

学部等	大学側(学生側)
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構大学教育センター教育推進部会
教育学部 教育学研究科	教育学部教務委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	教務委員会・大学院学務委員会
医学部 医学科	医学科教務部会 医学科学友会
医学部 保健学科	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会・生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科教務委員会
理工学部 理工学府	評価委員会専門委員 学生 WG 委員

(3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・学生支援機構	大学教育センター運営委員会において、実施科目及びアンケート項目を決定。 教務システムを利用しアンケートを実施。 教務システムから回答データを出力し集計する。
教育学部 教育学研究科	WEBを利用しアンケートを実施した。 なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では、別途「授業改善報告書」を教員が作成して教務係へ提出する方式をとった。
社会情報学部 社会情報学研究科	学 部: 前後期の授業終了時にアンケート用紙を配布し、回収した。 大学院: 後期授業終了時に教務システムでアンケートを実施した。
医学部 医学科	医学科の学生自治組織である学友会に設置されている授業向上委員会が主体となり、1年次から6年次の各学年に対してアンケートを実施し、回収・集計結果を医学科教務部会に報告している。
医学部 保健学科	教務システムを用いてオンラインにより実施している。
医学系研究科	教務システムのアンケート機能を活用し、医科学専攻の基礎連続講義、医学基礎技術実習の履修者及び生命医科学専攻の基礎科目の履修者を対象にアンケートを行った。
保健学研究科	前学期の授業最終日にアンケートを配布し、教員が回収後、大学院係へ提出する。

<p>理工学部 理工学府</p>	<p>前期・後期で、学部・大学院のうち1科目以上は全教員が授業改善のためのアンケートを受けることとした。大学院については、原則全科目で実施することとした。詳細な実施方法は、各学科・教育プログラムで決定したが、主に学生側にアンケート用紙の回収等を行うワーキンググループを組織してもらい、これが主体となって実施した。各教員はアンケート結果に基づいて、学生に回答するためのリアクションペーパー等を作成した。</p> <p>また、昨年度の評価委員会において意見が出された、理工学部の1年生を対象に行われている全ての専門科目について、今年度後期から教務システムにより授業改善のためのアンケートを実施することとした。</p> <p>さらに、教員相互の公開授業を前期・後期ともに実施した。</p>
----------------------	---

(4) アンケート結果に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
<p>大学教育・学生支援機構</p>	<p>【結果概要】 「学びのリテラシー」を対象に学生アンケートを実施した。教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)や、教員の授業の教え方などの確認ができ、課題も見つけることができたので今後の授業内容等の改善が期待される。</p> <p>【課題】 総合的には概ね好評価であったが、「能力の向上」、「授業の進め方」についての改善が課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 評価結果を各教員にフィードバックし、授業改善策を提出させた。</p>
<p>教育学部 教育学研究科</p>	<p>【結果概要】 ① 総合評価において、9割以上の学生が肯定的な評価(「優れている」、「やや優れている」)をしている。 ② 授業評価実施科目のうちでアクティブ・ラーニングを実施していると思われる授業科目は全体の6割以上を占めており、当該科目の総合評価においては、「優れている」、「やや優れている」といった肯定的な意見が全体の9割以上を占めている。</p> <p>【課題】 ① 全体から比べると小さな割合だが、評価項目の「授業内容の適切さ」、「説明の分かりやすさ」において、改善すべきとの評価をしている学生がいる。 ② 学部においては、予習・復習をしなかったと回答した者が約4割いる。</p> <p>【具体的な改善事例】 以下のような改善事例があった。 ① 授業内容の難易度を確認するとともに、質問等を記入させるリアクションシートを実施した。 ② オリジナルテキストに触れてほしくて、引用文をなるべく多く引用してプリントに掲載したが、難易度が高いものが多く時間の関係上、説明が十分でない部分が多かったので、引用の量を減らして説明を増やした。</p>

	<p>③ 授業内容と期末課題がマッチしていない、量が多い、との意見を受け、課題を分散し、期末に負担が大きくなるように配慮した。内容と課題の適合については、課題意図の説明を行った。</p> <p>④ 学生の自習時間の少ない現状を改善するため、原則として毎回、予習課題として資料を読むことを課した。</p> <p>⑤ 学生主体の模擬授業の回数を多くした。また模擬授業準備等に伴う時間外学習の時間を多くするように試みた。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】 前年度と比較すると、前期はほぼすべての項目で上回り、逆に後期は下回る結果となったが、その後期でも「興味もてる」「内容はわかりやすかった」「考える力を高めた」などの項目で、8割の学生が「そう思う」「まあそう思う」と回答しており、総じて高い評価であった。</p> <p>【課題】 「予習・復習はしなかった」と答えた学生が前後期共に4割おり、週1時間未満も加えると7割近くになる。授業時間外での学習時間が少ない。</p> <p>【具体的な改善事例】 レポートや課題を出すなど、授業時間外での学習を促すような学修指導を個別の授業で行った。</p>
医学部 医学科	<p>【結果概要】 アンケート集計結果は、医学科教務部会に報告後、例年実施しているFDで公表している。科目単位のフィードバックを行い、今後の授業内容、事業実施方法の向上に寄与している。</p> <p>【課題】 ・6年次集中講義に予備日を設定する必要がある(天候不良等による休講対策)。 ・アクティブラーニング形式を積極的に取り入れる必要がある。 ・卒前講義(実践臨床病態学)の開講時期を検討する必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 ・6年次集中講義に2日間の予備日を設定した。 ・平成29年度より低学年科目にもTBLやシミュレーション教育を導入した。 ・実践臨床病態学の開講期間の見直しを及び水平的統合を意識した講義配置への変更を行った。 ・カリキュラム検討委員会及びカリキュラム評価委員会を設置し、学生も委員に加えたことにより学生の意見を反映しやすい組織とした。</p>
医学部 保健学科	<p>【結果概要】 全科目に対して授業評価アンケートを実施した。</p> <p>【課題】 回収率の維持及び更なる向上策の模索</p> <p>【具体的な改善事例】 平成26年度までは紙ベースでの実施方法から教務システムを用いての実施方法に移行した。 平成27年度は、その初年度のため回収率が従来の6割から2~3割と大幅に低下したが、授業時における教員からの周知、保健学科教務係からのメール</p>

	及び掲示板等を通じた周知等を通じて、53.4%とかなり回収率が向上した。
医学系研究科	<p>【結果概要】</p> <p>昨年度、教務システムのアンケート機能を利用しアンケートを実施し、これまでよりも回収率が高かった。そのため、今年度は、医科学専攻のみではなく、生命医科学専攻にも範囲を広げ、教務システムによりアンケートを実施した。</p> <p>PC 入力により回答ができ、記載への負担が少ないためか、詳細に意見を書く学生が多数いた。アンケート集計もシステムが行ってくれるので、職員の負担も軽減した。</p> <p>結果については、授業改善に資するよう担当教員にフィードバックした。</p> <p>【課題】</p> <p>●医科学専攻</p> <p>グローバル化が進展し、留学生数が増えてきている。それに伴い、英語化に係る対応を進めているが、留学生から、対応が不十分であるとの声が上がった。授業以外の部分を含め全般的に対応が十分ではない状況にあり、改善が必要であるが、国際交流関係の窓口が昭和地区にないことから、あらゆる点で、教職員、学生双方が苦勞している。</p> <p>●生命医科学専攻</p> <p>留学生からの意見踏まえ、これまでに次のとおり対応し、改善してきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 秋入学の生命医科学専攻(修士課程)の学生と懇談した結果、日本語での授業は理解ができない事が明らかとなったため、すべての講義実習を英語で開設することとした。 2. 日本語によるコミュニケーション能力向上のため、通常授業の「基礎科学 日本語」に加え、週に複数の日本語の授業を選択科目として開設し、受講できるようにした。 <p>これらの結果、学生の講義に対する理解力が飛躍的に上昇し、また、日本語の学習機会が増加した。</p> <p>生命医科学専攻においても、国際交流の窓口が昭和地区にないことから、あらゆる点で、教職員、学生双方が苦勞している。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>●医科学専攻</p> <p>平成 29 年度は、原則、授業用のスライドをすべて英語表記にする予定である。</p> <p>●生命医科学専攻</p> <p>平成 28 年度に入学する学生の受入れ体制について、入学前から、教務委員会において、組織横断的に対応を検討し、スムーズな受入れを実現した。</p>
保健学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>保健学研究科博士前期課程の各領域学生の必修科目である特別セミナーにおいて実施をした。</p> <p>授業最終日に教員によって配布、回収することにより回収率を高めることができた。授業評価についての回答は、5段階評価中4、5が多数となっており、おおむね好結果が得られた。</p>

	<p>【課題】 授業への積極度が、「やや積極的」が多数を占めた。「非常に積極的」が多数を占めるようにしていくのが課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 アンケートを行った3科目ともオムニバス形式であり、各領域の教員、非常勤講師が多岐にわたる研究テーマを紹介したことが学生の興味を引いたようである。今後も最新研究の動向を紹介できるように講師の人選を行い、学生の積極的授業参加を促していきたい。</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 改善を希望する点や、その授業の良い点などが詳しく書かれているため、教員にとって授業方法改善の参考となっている。授業による差はあるものの、全体的な傾向として学生からは概ね良好な評価を得ている。</p> <p>1年生を対象に行われている専門科目の授業改善アンケートについては、今年度後期に試験的に実施したものであり、アンケート結果に対する学生へのフィードバック等は実施していないが、担当教員へは今後の授業方法改善のため、結果を通知した。</p> <p>公開授業については、昨年度と同様学部全体で実施期間を設定し、学科・キャンパスを問わず他の授業を見学できるようにした。見学した教員は報告書を作成している。主な意見としては、自身の担当する授業の計画を立てる上で参考になった、継続して実施して欲しい、といったものが多かった。</p> <p>【課題】 1年生を対象としたアンケートについて、回答率が約57%と低かった。また、アンケート結果に対する教員の意見を、学生へフィードバックする機会が必要との意見があった。</p> <p>公開授業について、他学科の授業の見学は躊躇われる旨意見があった。また、学生実験の担当教員となっている等の理由により、時間的な余裕がないために見学できない旨意見があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 定期的に回答率を確認し、回答率が低い授業については教員から学生に回答を促す旨アナウンスをする等の改善策を、来年度の評価委員会において検討することとした。また、アンケート結果を学生へフィードバックする機会について、今年度は担当教員がリアクションペーパーを作成することとし、フィードバックの方法については来年度の評価委員会において検討することとした。</p>

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学生と学長との懇談会	H28.10.11	14名	12名	4月入学の学生を対象に大学生活に関して、学長と直接対話する機会を設け、大学への意見・要望を聴取
教育学部 教育学研究科	学部長との懇談会	H29. 1.26	6名	32名	学習環境、授業内容など
	院生との懇談会	H28. 11.30	11名	28名	カリキュラム、学習環境など
社会情報学部 社会情報学 研究科	学部長と学生との懇談会	H28.10.26	7名	10名	学部長(他の教員を含む)と学生とで懇談
	研究科長と大学院生との懇談会	H29. 2. 1	6名	8名	研究科長(他の教員を含む)と学生とで懇談
医学部 医学科	第1回 医学科学友会と教職員との懇談会	H28. 6.27	22名	19名	授業・実習関係、施設及び学生生活関係
	第2回 医学科学友会と教職員との懇談会	H29. 1.30	22名	16名	授業・実習関係、施設及び学生生活関係
医学部 保健学科	第1回保健学科学友会と教職員との懇談会	H28.6.24	22名	17名	教育課程・施設等に対する要望の聴取、意見交換
	第2回保健学科学友会と教職員との懇談会	H28.12.9	21名	17名	教育課程・施設等に対する要望の聴取、意見交換
医学系研究科	特になし				
保健学研究科	特になし				
理工学部 理工学府	平成 28 年度前期 授業改善アンケート報告会(化学・生物化学科2年生)	H28.7.21	教員 12名	24名	アンケート実施科目全てに関して、学生 WG 委員が集計結果及び教員からの回答を PP を用いて説明した後、最後に教員と学生間で意見交換を行った。
	平成 28 年度前期 授業改善アンケート報告会(化学・生物化学科3年生)	H28.7.19	教員 10名	21名	同上

	平成 28 年度後期 授業改善アンケート 報告会(化学・生 物化学科 2 年生)	H29.1.31	教員 10 名	23 名	同上
	平成 28 年度後期 授業改善アンケート 報告会(化学・生 物化学科 3 年生)	H29.1.30	教員 11 名	21 名	同上
	2 年生と教員との 懇談会(機械知能 システム理工学 科)	H28.8.9	教員 3 名	120 名	2 年生からの授業や学生生 活に対する要望や意見を 聞き、その場で教員側が対 応した。
	3 年生と教員との 懇談会(機械知能 システム理工学 科)	H28.8.10	教員 6 名	120 名	3 年生からの授業や学生生 活に対する要望や意見を 聞き、その場で教員側が対 応した。
	大学院理工学府 長と学生との懇談 会	H29.1.18	12 名	20 人	事前に取りまとめた意見・ 要望についての回答、そ の他意見交換
	学生との懇談会 (環境創生理工学 科・環境エネルギー コース)	H29.1.27	教員 1 名	68 名	教員と学生の意見交換
	学生との懇談会 (環境創生理工学 科・社会基盤・防 災コース)	H29.1.31	教員 4 名	5 名	教員と学生の意見交換
	授業評価アンケート 結果に基づく学 生と教員の懇談会 (電子情報部門 電気電子コース)	H29.2.1	評価委員 1 名	学部生 6 名	1. 授業評価アンケートの コメントに対する評価 2. 授業評価アンケートの アンケート項目について 3. 授業評価アンケート後 のフィードバックのあり方 について 4. その他(講義全般での 要望、学生実験での要望、 講義室等への要望等)
	授業アンケートに 基づく懇談会(電 子情報部門 情報 科学コース)	H29. 2. 7	教員 1 名	学生 8 名	授業アンケート結果に基づ く教員と学生の意見交換

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構 ※詳細については別紙4「学生と学長との懇談会要旨」参照	<p>【結果概要】 学習環境、施設・設備などについて、学生から意見・要望があった。</p> <p>【課題】 ・空き教室や駐車場等の学内施設の利用環境改善を求める学生が多い</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 設備、カリキュラム、実習等について要望があった。 ② 平成 28 年度前期の授業評価アンケート集計結果を基に学部学生と意見交換を行った。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学部においては、実習校の配当、実習に関するレポート課題、設備面、放課後の教室開放の改善を求める学生が多い。 ② 大学院においては、教職実践インターンシップの実施や設備面の改善を求める学生が多い。 <p>【具体的な改善事例】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習校の配当について、事前に希望実施地域の調査を行い、希望に添えるように善処した。 また、一人暮らしの学生については、出来る限り前橋市や吉岡町などの実習校に配属をするように配慮した。さらに、来年度の教育実習校に甘楽中学校を追加し、学生が希望した地域で実習できるよう対応した。 ② 放課後の教室開放について、盗難や電気・空調の電源が教室使用後に切られていないという問題点もあるので、それらの解消方策と共に学習場所の提供に向け検討を進めている。 ③ 平成 28 年度の大学院新入生オリエンテーションにおいて、「教職実践研究」及び「教職実践インターンシップ」の実施について説明を行い、学生が抱える疑問を解消するよう努めた。 ④ 「教職実践インターンシップ」について、自分の研究内容や専攻に関連した学校で行いたいとの要望があったことから、次年度は附属特別支援学校を実習校に追加することで調整をしている。 ⑤ 学部生の教育実習と大学院生の「教職実践インターンシップ」が実習校において混同されて扱われていることから、当該インターンシップの目的や院生の立場を実習校に改めて説明をすることとした。
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】 学生の参加者を増やすべく、教務システムや掲示などで参加を促したが、前年とあまり変わらず、学部生が 10 名、大学院生が 8 名であった。学生から見て大きな課題がないことが、出席者数の少なさや、懇談会の様子などから伺われた。</p> <p>【課題】 主に施設、設備に対する要望があった。</p>

	<p>【具体的な改善事例】 無許可駐車を取り締まりを実施した。 女子トイレの消音機の補修を行った。 大学院生室のパソコンを増設した。</p>
医学部 医学科	<p>【結果概要】 学生から施設に関する質疑が出るため、施設担当職員が参加することとした。 カリキュラム等について、学生と教職員間で活発な意見交換が行われた。</p> <p>【課題】 カリキュラムについて、学生が検討委員会の委員となり学生の意見が反映される仕組みになっていることについて、周知がされていない。 手術着が不足している。</p> <p>【具体的な改善事例】 カリキュラム検討委員会の議事録を学生が掲示して周知した。 手術着を購入した。</p>
医学部保健学科	<p>【結果概要】 学生から施設に関する質疑が出るため、施設担当職員が参加することとした。 学生からの要望に基づき各講義室の設備等を改善した。</p> <p>【課題】 老朽化が進んでいる西棟の改修</p> <p>【具体的な改善事例】 大講義室のカーテンを新しくした。 各講義室の机、椅子及びマイク等の不具合に修理等の対応をした。</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 懇談会では学生の参加者を増やすため、期末試験期間中の必修科目終了後に懇談会を開催するように工夫した学科もあり、結果としてこの学科は参加者が多かった。また、1年間の授業改善アンケートの結果について、後期の懇談会においてまとめて議論する学科が多かった。 懇談会では講義に関する意見だけではなく、学生生活関連の意見を聞くこともできた。学科によっては、懇談会の議事録は教員にメールで知らせるとともに、アンケート集計結果と共に事務室で公開され、学生も自由に見ることができる。</p> <p>【課題】 (電子情報理工学科・電気電子コース) アンケート結果の公表に関してはした方が良いという意見が多く検討課題である。 アンケートに対する教員の対応に関しては、 ・他学科でもやっているなら、アンケートを公表し、リアクションペーパーを出すようにした方が良い ・従来通り、次年度の講義から教員個人がアンケート内容に対応した自助努力をすればよいのでは という両方の意見があり、学科会議でこの件について検討することが課題</p>

	である。
	<p>【具体的な改善事例】 (電子情報理工学科・電気電子コース) アンケート結果の公表に関してはした学科で検討したが、公表しないこととした。</p> <p>また、コメントに対するリアクションについては、来年度以降、各教員が早目にアンケートを取り、そのコメントに対するリアクションを講義期間中に学生に対して説明することを義務付けることとした。</p>

3. FD活動

(1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構大学教育センター	ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業	H28.7.26	126名	最優秀賞候補者3名による公開模擬授業を実施
	大学教育・学生支援機構大学教育センター	第8回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」	H28.11.15	42名	アクティブラーニング導入の背景や意義、様々な方法とその効用などについて講演
	大学教育・学生支援機構大学教育センター	群馬県内大学等メンタルヘルス研究会	H29.1.20	49名	障害者差別解消法施行後の発達障害学生への支援について講演及び意見交換
	大学教育・学生支援機構大学教育センター	英語教育FD	H29.3.15	19名	・H28年度カリキュラム運営報告 ・H29年度カリキュラム説明 ・教育学部、理工学部統一カリキュラムについての意見交換
教育学部 教育学研究科	教育学部	特設の授業公開(前期)	H28.5.30	4名	授業公開の実施
			H28.7.20	2名	授業公開の実施
	教育学部	特設の授業公開(後期)	H28.10.3	0名	授業公開の実施
			H28.11.17	2名	授業公開の実施
	教育学部	ベストティーチャー賞受賞者による授業公開	H28.12.2	0名	授業公開の実施
教員養成FDセンター	第1回教育サロン	H28.7.15	10名	学部新任教員を囲み、附属小学校の公開研究会に参加して感じたことを意見交換した。	

	教員養成 FD センター	・手引作成研修会 ・教育実習協力校訪問研修会	H28.9.30	11 名	附属学校で教員が授業をする際に必要な支援内容について、新任教員、附属学校教員、FD センター員それぞれの立場から意見交換をした。また、新任教員が実習 B で県内の小中学校を訪問する際の授業観察や協議会における指導講評等の望ましい仕方について意見交換した。
	教員養成 FD センター	第 2 回 教育サロン	H28.12.14	10 名	教育実習の授業参観を通して感じたことを学部新任教員を囲みながら附属学校教員、学部 FD センター員で意見交換し、附属学校と学部教員の今後の連携協力の在り方について協議した。
	教育学部	教育学部FD 講演会	H28. 5.18	79 名	教育学部・教育学研究科の現状と課題
	教育学部	教育学部FD 講演会	H28. 7.20	85 名	個人情報管理
社会情報学部 社会情報学研究科	社会情報学教育・研究センター	共愛学園前橋 国際大学施設・ 設備視察	H28. 5.24	2 名	アクティブ・ラーニング 関係施設の視察
	社会情報学教育・研究センター	公開授業(PB L)	H28. 6. 3	5 名	地域情報論
	社会情報学教育・研究センター	社会情報学部F D講習会	H28. 7.13	22 名	障害のある学生への対応についての講習会
	社会情報学教育・研究センター	公開授業(PB L)	H28. 9.25	6 名	仕事の現場を知る C
	社会情報学教育・研究センター	公開授業(ベス トティーチャー 賞受賞)	H29. 1.27	4 名	情報メディア基礎論
医学部医学科	医学科教務部会	医学教育教授法 ワークショップ	H28.12.17	131 名	模擬授業、特別講演(分野別評価受審に関する講演)

医学部保健学科	教育課程専門委員会	第1回 保健学教育 ワークショップ	H27. 9.12	73名	ベストティーチャー賞受賞者による講演
医学系研究科	医科学専攻教務委員会・生命医科学専攻教務委員会	群馬大学大学院 医学系研究科 FD	H29. 2.15	65名	群馬大学全体を統合した研究支援体制 Clinical Biobank 等
保健学研究科	保健学研究科教務委員会	平成28年度 保健学教育 ワークショップ	H29. 3.14	69名	・「国際的視野をもって地域社会で活躍する多様な保健人材の育成事業」報告 ・保健学研究・教育センター各推進室 活動成果報告
理工学部 理工学府	理工学部	JABEEに係る教養教育担当教員との懇談会	H28.8.2	10名	新年度入学生の様子、変化など傾向について
	理工学部	群馬大学大学院 理工学府 FD 講演会	H28.10.19	83名	山形大学工学部の教育・研究プロジェクトや組織整備について
	理工学部	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業	H28.12.22	103名	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業
	理工学部	アクティブ・ラーニングに係る講演会	H28.12.22	103名	理工系におけるアクティブ・ラーニングの状況等
	理工学部	英語教育に関する意見交換会	H29.3.28	26名	平成28年度のTOEIC-IP試験等について

(2) FD活動に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	【結果概要】 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」では、他大学の事例発表を通して今後の大学教育の取り組みについて確認した。
	【課題】 特になし
	【具体的な改善事例】 特になし

<p>教育学部 教育学研究科</p>	<p>【結果概要】</p> <p>① 見学者・授業者が相互に授業改善に資することを目的に、授業評価で好評を得ている授業について、広く見学者を募って授業公開を行った。</p> <p>② 学校現場の経験知の無い学部新任教員のための「手引書作成」について、新任教員を囲んで意見交換をしたことで、小中学校の授業参観の仕方や授業過程等の理解が深まった。</p> <p>③ 教育学部・教育学研究科の現状と課題及び個人情報管理について、教育学部FD講演会を実施した。</p> <p>【課題】</p> <p>① 教員の参加数が少ないことが課題である。</p> <p>② 新任教員の附属学校園における授業実践への主体的な高まりが今一步である。</p> <p>③ FD講演会は単独での開催・長時間の開催では参加者が集まりにくい。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>① 授業公開の日時・内容等について掲示するだけでなく、全教員宛にメールにて通知している。 また、教授会においても広報している。</p> <p>② 新任教員が附属学校園で授業をする上での不安を解消するためのサポート体制や授業実践の手引書作成のために、FDセンターの活動を通して附属学校園との連携をさらに強化していきたい。</p> <p>③ FD講演会は教授会に合わせて開催した。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【結果概要】</p> <p>問題解決型授業(PBL:アクティブラーニングの一種)についての理論と方法・実践を学ぶべく、PBL型授業を行い始めている授業中心に公開授業を多く開いた。併せて、2014年度に大学教育再生加速プログラム(AP)に採択され、問題解決型授業を率先して行っている共愛学園前橋国際大学に赴き、ハード面での整備についての必要性も確認した。</p> <p>また、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領」が制定されたことに伴い、教職員の理解を深めるべく、教育学部 金澤貴之教授を招き、講習会を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>PBL型授業を行うにあたり、設備面で不足している部分が多いことが認識された。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>PBLに必要な設備について、予算を確保し順次整備していくこととした。9月までに整備予定である。</p>
<p>医学部 医学科</p>	<p>【結果概要】</p> <p>より多くの教員にFD参加の機会を提供するため、土曜半日で実施した。</p> <p>【課題】</p> <p>FDを実施する教員が限られている。より多くの教員がFDを実施するようになると良い。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際基準に対応した医学教育分野別認証評価受審に関する教員の意識が高まった。 ・アウトカム基盤型教育に関する意識の共有が図れた。

<p>医学部 保健学科</p>	<p>【結果概要】 ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施して、各教員の授業方法・質の向上に努めている。単なる模擬授業ではなく、授業実施に当たってはいかに学生に興味を持たせるか、いかに内容を理解させることができるかを念頭に、ポイントを押さえて説明するなど、受賞者が留意している点を重点に講義を行った。</p> <p>【課題】 特定の教員だけではなく、保健学科教員全体のボトムアップとなるような意識づけが必要と思われる。</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
<p>医学系研究科</p>	<p>【結果概要】 (1)群馬大学全体を統合した研究支援体制 Clinical Biobank について (2)ERSC の新体制について (3)チェアマンが担当していた業務のあり方について 上記について最新の情報を紹介し、これらのさらなる発展を目的として活発に意見交換を行った。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
<p>保健学研究科</p>	<p>【結果概要】 保健学研究科主催のFDは、H28年度初めて実施をした。「国際的視野をもって地域社会で活躍する多様な保健人材の育成事業」は、H28年度で終了となるため、事業の総括・報告として意義ある会となった。事業を運営してきた保健学研究・教育センター各推進室の活動についての理解も深まった。</p> <p>【課題】 保健学研究・教育センターの研究、教育支援活動を支える資金が不足している。</p> <p>【具体的な改善事例】 積極的に外部資金獲得を行う。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【結果概要】 ベストティーチャー賞受賞者による模擬授業において、プロジェクターや教材を用いた説明方法、特に注意している点等の説明があり、それを踏まえた講義をしてもらい、出席した教員の授業に活かすよう心掛ける機会となっている。 また、アクティブ・ラーニングに係る講演会では外部講師に理系のアクティブ・ラーニングの授業の方法等講演・実践してもらい、アクティブ・ラーニングの授業とはどんなものか共通認識できる機会となった。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>

4. 学生等への意見調査 (在学生、卒業(修了)生、就職先及び保護者など)

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
大学教育・学生支援機構	特になし			
教育学部 教育学研究科	教育実習AおよびBに関するアンケート	H28.11	学部3年生 212名	教育実習の充実度等に関するアンケート
社会情報学部 社会情報学研究科	新入生との懇談会	H28. 4. 5	学生 100名 保護者 20名	新入生と教員とで懇談 学部長と新入生の保護者とで懇談
	後援会総会	H28. 6.25	保護者 33名	後援会総会
	学部卒業時アンケート	H29. 1.28	学生 99名	卒業論文発表会終了時に、学部生としての活動を総括するアンケートを実施
	研究科修了時アンケート	修士論文発表会終了後	学生 10名	修士論文発表会終了時に、院生としての活動を総括するアンケートを実施
医学部医学科	卒業生アンケート	H28.1～	昭和 60 年度、平成 7 年度、平成 17 年度、平成 23 年度、平成 24 年度、平成 25 年度の卒業生 (回答数 110)	卒業生に対し、自身が受けた教育への評価、実際の職業生活との関連性、群馬大学への希望等の調査を行った
医学部保健学科	特になし			
医学系研究科	特になし			
保健学研究科	特になし			
理工学部 理工学府	教育改善のための卒業生アンケート	H28.8～11	H24～28 の学部卒業生 2,595 名	群馬大学理工学部の教育(授業、カリキュラム等)に対する意見・要望を卒業生から募った。

(2) 意見調査に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】 実習の充実度、実習期間の設定、実習校への割り振りの満足度、実習A(基礎実習)における経験を実習B(応用実習)へ活用できたかについて、8割以上の学生が肯定的な評価をしている。</p> <p>【課題】 期間設定と実習校の割り振りについて満足度が低い。</p>

	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>来年度の教育実習校に甘楽地区を追加し、実習希望地域の選択肢を増やした。実習期間については、各実習校や教育委員会との調整が必要となるため、引き続き、どのような 期間設定が可能か、教育実習委員会において検討を続ける。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>学生だけでなく、保護者にも棟内を案内し、施設・設備の紹介を行い、概ね好評であった。</p> <p>また、学部卒業時アンケートにおける「群馬大学社会情報学部でのあなたの学生生活は、充実していましたか」との質問に対し、「とても充実」「充実」と回答した者は情報行動学科で合わせて 94.3%、情報社会科学科で 95.4%いた。研究科修了時アンケートでのそれは 90%であった。</p> <p>学部・研究科ともに、学生は、学生生活に満足し、高く評価していることが伺われた。</p> <p>【課題】</p> <p>大学院進学情報の提供について「あまり行われていなかった」「ほとんど行われていなかった」と答えた回答者が、情報行動学科で 42.43%、情報社会科学科で 43.2%いた。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>大学院説明会の案内の方法・時期について、今後工夫をする必要がある。</p> <p>なお、昨年度に課題となっていたキャリア教育に関するキャリアサポート室との連携については、3 月 8 日に荒牧地区合同説明会を開催し、多くの企業(23 社)・学生(63 人)が参加し好評であったため、今年度も引き続き実施する予定である。</p>
医学部医学科	<p>【結果概要】</p> <p>現役で活躍する卒業生の状況や貴重な意見が得られた</p> <p>【課題】</p> <p>現在検討中である</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>現在検討中である</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】</p> <p>本アンケートは、理工学部・理工学府の教育改善のために 5 年ごとに行っている。今回の調査は平成 13 年度の第 1 回から通算して 4 回目の実施であり、平成 24 年 3 月から平成 28 年 3 月までに学部を卒業した 2,595 名を対象者とした。回答者の総数は 454 名、回答率は 17.5%であり、前回の 9.8%を大きく上回った。</p> <p>集計データの整理及び解釈は各学科で行い、それをまとめて報告書を作成し、教員及び学科事務室等に配布している。教員は卒業生から寄せられた意見を基に授業やカリキュラムを検討・改善しており、全体的な傾向として前回実施時よりも良い評価を得ることができている。</p> <p>【課題】</p> <p>社会人の回答率が低い。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>回答期間を夏期・冬期の長期休暇と重なるように実施することを検討する。</p>

5. 学外者の意見や第三者評価等の結果の活用

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	内容
大学教育・学生支援機構	特になし		
教育学部 教育学研究科	特になし		
社会情報学部 社会情報学研究科	アドバイザーボード委員会	H28. 6. 6	アドバイザーボード委員を招き、研究科のカリキュラム改革などについて意見を伺った。
医学部医学科	特になし		
医学部保健学科	特になし		
医学系研究科	卒前・卒後一貫MD-PhDコース外部評価委員会	H29. 2.21	基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成事業の取組状況について、今後の発展に資するよう、学外者に評価していただいた。
	地域オープンイノベーション R&D 人材養成事業事業評価委員会	H29. 2.20	未来医療研究人材養成拠点形成事業の取組状況について、事業の改善に資するよう、学外者に評価していただいた。
	重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム外部評価委員会	H28.10.22	博士課程教育リーディングプログラム事業の取組状況について、事業の改善に資するよう、学外者に評価していただいた。
保健学研究科	特になし		
理工学部 理工学府	特になし		

(2) 意見等に基づく改善事例

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【意見・指摘事項】</p> <p>卒業する大学院生にどのような姿を求めているか。また、社会人学び直しも進めているとのことだが、どちらもターゲットを明確にする必要ある。</p> <p>社会の要請があること及び現状の問題点を解決するために大学院改革を行うとのことだが、そこから何故2コース制を設定したのかがわかりにくかった。</p> <p>前年度とほぼ同数の回答件数であったが、在籍件数が前年度に比べて27名増加しており、前年度比+5.7%であった。施設・設備において、駐車場の管理に関する要望が比較的多く見受けられた。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>ポンチ絵等について、大学院改革の状況がわかりやすいように整理を行った。</p> <p>大学院生募集、社会人学び直し募集のそれぞれについてターゲットを明確にし、広報資料等を検討することとした。</p>

医学系研究科	【意見・指摘事項】 <ul style="list-style-type: none"> ●卒前・卒後一貫 MD-PhD コース外部評価委員会 大学院修了後、引き続き研究に従事するためのキャリアパスの構築 ●地域オープンイノベーション R&D 人材養成事業評価委員会 地域において新規医療開発部門で働く人々を対象としたインテンシブコースの定員充足率の引上げ ●重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム外部評価委員会 英語のプレゼンテーション能力の向上 本学理工学部出身者からの入学者の増加
	【具体的な改善事例】 指摘事項を踏まえ、必要な措置を講じていく予定である。

5. その他 特記事項

学科等	特記事項
大学教育・学生支援機構	特になし
教育学部 教育学研究科	特になし
社会情報学部 社会情報学研究科	特になし
医学部 医学科	特になし
医学系研究科	本研究科ではとくに学生との懇談会・意見調査などは行っていないが、上記 FD や「大学院生によるワークショップ」の後に、学生と教員、外部評価者、招待講演者などとの意見交換会を開催しており、その機会を利用して学生からの意見を聴取し、それを教育方法改善に役立てるよう努めている。
医学部 保健学科	特になし
保健学研究科	特になし
理工学部 理工学府	特になし

6. 根拠資料

学部等	根拠資料
大学教育・学生支援機構	1)平成 28 年度前期授業評価集計表 2)平成 28 年度後期授業評価集計表 3)学生と学長との懇談会要旨 4)群馬大学ベストティーチャー最優秀賞候補者による公開模擬授業開催案内 5)第 8 回全学 FD 連続講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内 6)群馬県内大学等メンタルヘルス研究会 7)Gunma University English Language Teaching FD Seminar 開催案内
教育学部 教育学研究科	1. 授業評価集計結果 2. 授業評価アンケートWEB画面 3. 授業改善報告書 4. 平成 28 年度教育学部長と学生との懇談会要望事項一覧 5. 平成 28 年度修士課程院生との懇談会要望事項一覧 6. 特設の授業公開概要 7. 平成 28 年度 特設の授業公開科目一覧 8. 平成 28 年度「教育実習AおよびB」に関するアンケート集計結果
社会情報学部 社会情報学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・学部授業評価アンケート、集計結果 ・大学院授業評価アンケート、集計結果 ・学部長との懇談会実施要項、懇談会記録 ・研究科長との懇談会案内、懇談会記録 ・ガイダンス一覧 ・後援会定期総会次第 ・学部卒業時アンケート、集計結果 ・研究科修了時アンケート、集計結果
医学部 医学科	<ul style="list-style-type: none"> ・学友会懇談会質疑応答内容 ・医学科教職員 FD
医学部 保健学科	<ul style="list-style-type: none"> ・前期授業評価アンケート集計結果 ・平成 28 年度前期 FD 出欠状況確認表
医学系研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・医科学専攻在学生アンケート集計結果
保健学研究科	特になし
理工学部 理工学府	1. 授業改善のためのアンケート用紙 2. 授業改善のためのアンケート結果票 3. 公開授業に関するアンケート 4. 学生との懇談会 5. JABEE に係る教養教育担当教員との懇談会 6. 群馬大学大学院理工学府 FD 講演会 7. ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業、アクティブ・ラーニングに係る講演会 8. 英語教育に関する意見交換会 9. 卒業生アンケート用紙 10. 卒業生アンケート報告書

